宗教新聞
発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940（代）
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2024

購読料（税込）
１部　500円
半年　3,000円（〒共）
年間　6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

武甲山を仰ぐ今宮神社で龍神祭

八大龍王と水の恵みに感謝

埼玉県秩父市

4月4日、八大龍王神の神徳、水の恵みに感謝する「龍神祭」が埼玉県秩父市にある今宮神社（塩谷崇之宮司）の大ケヤキ「龍神木」の前で斎行された。幹回り約9メートルの大ケヤキは樹齢約1300年で埼玉県の天然記念物。同日午後には、秩父神社（薗田建宮司）から神部（かんべ）の一行を迎え、田植えの霊水を分ける「水分（みくまり）神事」が古式ゆかしく行われた。同社では水分の神である八大龍王神が祀られ、境内の龍神池には秩父の霊山・武甲山からの伏流水が噴き出している。

玉串を奉って拝礼する塩谷崇之宮司＝4月4日、埼玉県秩父市の今宮神社

午前10時半、雨が止み晴れ間が広がる中、祭事が始まった。修祓の儀、祭主一拝、献饌の儀があり祭主の塩谷宮司が祝詞を奏上した後、導師・中村慶海直参大先達（本山派修験）の主導で参列者一同が般若心経を奉読した。地元の小学校6年生による「豊栄舞」、音楽家柚葉弥衣（ゆらやよい）氏による歌唱が奉奏され、宮司が玉串を奉って拝礼した。続いて氏子総代、奉賛会会長代理、北堀篤・秩父市長、中井徳太郎・前環境省事務次官、新井豪・埼玉県議会議員、秩父市議、中町町内会役員ら代表者が玉串を奉って拝礼し、一般参列者がそれに続いた。

塩谷宮司は参列者に感謝の言葉を述べ、「武甲山の龍神様が地下を通して里に、今宮の池に下りてくる恵みに感謝するのがこの祭り。水分神事で総鎮守である秩父神社にお授けし、その水を用いて秩父の農耕が始まる。水は秩父だけでなく、下流域の関東平野から大海原に出て、やがて天に昇り、山に降りてくる。大きな流れの春の第一歩に、今年一年の無事と繁栄、皆様の健康を祈願する」と説明した。

来賓の新井県議は「私は氏子の一人で、子供の頃は神社の境内で遊んだ。御神木に見守られ、龍神様に育まれたのを実感している。これからはその恩返しとして、地域の皆様と一緒に御神木を見守り、今宮神社を守っていきたい」と語り、中井前環境省事務次官は「武甲山の伏流水から湧き立つこの今宮の水は環境省の平成の名水百選の一つ。命の源である水、その神様である龍神は日本人にとっては自然の象徴とも言える。この祭りを通した自然との向き合い方は世界人類が共有できる」と話した。

今宮神社の地には古くからイザナギ・イザナミの神が祀られていた。古伝によると、当地の暴れる龍を、大宝年間（701～704）に飛来した役行者が、観音菩薩の宝珠を宿す八大龍王を合祀して鎮め、八大宮を建立し、秩父霊場を開いたとされる。平安時代には一大修験道場・観音霊場を成し、江戸開幕前後から聖護院の直末寺として隆盛を極めた。明治初めの神仏分離で「今宮神社・八大宮」と「今宮観音堂（秩父札所十四番）」に分けられ、龍神祭は廃れたが、平成4年に復活。武甲山は妙見山とも呼ばれ、古くから妙見信仰が根付いていた。

同日午後1時半、白装束で鍬を担ぐ農民に扮した秩父神社の神部一行が今宮神社に到着すると、水分神事が行われた。水麻（みずぬさ）授受の儀では、神部代表の黄色装束の作家老（浅見弘氏）が水麻を秩父神社の大澤孝禰宜に渡し、さらに今宮神社の塩谷宮司に渡され、本殿に奉奏された。

次に、塩谷宮司が水分の祝詞を、大澤孝禰宜が水乞いの祝詞を奏上し、豊作を祈念し、今宮神社宮司、秩父神社禰宜、作家老が玉串を奉って拝礼し、両関係者がそれに続いた。その後、八大龍王の御神徳水の御恵みを宿した水麻が、今宮神社宮司から秩父神社禰宜へ、さらに作家老へと授与された。

次は馬による「代掻き」で、神部2人が鼻取竹（馬）の両側を持ち、後ろから神部がサラで馬を叩き、走らせる。馬の役の若い神部は力強く暴れ馬を彷彿させる所作で演じ、周りから歓声が沸き起こっていた。そして、神部が鍬を振りながら「田ならし」をし、作家老と神部一人が籠に入れた種もみを苗代にまく「種籾まき」を行った。種もみは昨年の秩父夜祭で大前に供えられたもの。

続いて「本田づくり」で、再び「田打ち」「くろぬり」があり、「肥料まき」では「カッチキ（刈敷）」と呼ばれる切り藁が敷き込まれた。「代掻き」「田ならし」に続いて、いよいよ「田植え」。神部たちは後ろ向きで苗に見立てたわらを植え、一つ一つ苗を植えている所作を丁寧に演じていた。最後に、秋の収穫を示す「餅まき」では、作家老と神部たちが無病息災・開運招福の餅を見物客に配った。

ユネスコ無形文化遺産に登録されている12月3日の秩父夜祭では、水口の藁の龍神が大真榊を立てる榊樽に巻き付けられ、御神幸行列の先頭を進む。夜祭は豊作をもたらした「お水」を武甲山の山の神に返す、新穀感謝の祭り（新嘗祭）でもある。春の水分祭・御田植祭で始まる水の恵みが一巡し、秩父は無事に新たな年を迎える。

水分祭で今宮神社の塩谷崇之宮司（左）から水麻を受け取る秩父神社の大澤孝禰宜（右）

秩父神社で伝統の御田植神事
田植えの所作で豊作祈る

4月4日、埼玉県秩父地方の総鎮守・秩父神社では、武甲山の神様を迎えて豊作を祈願する「御田植神事」が斎行された。しめ縄が張られた境内を神田に見立て、表の鳥居を水口に見立てる龍の形の稲わらが巻き付けられた。

埼玉県の選定無形民俗文化財に指定されている御田植祭に奉仕するのは、秩父神社御田植祭保存会の会員たちで、高齢者から青年まで幅広い世代で構成される。40年以上前から作家老を務めている浅見弘氏をはじめ、神部たちは伝統の所作を元気に威勢よく、ユーモラスに演じていた。

午後1時、薗田建（たける）宮司以下神職・作家老が本殿に昇殿し、社殿前の神部たちと「御田植祭」を斎行。神前には、昨年の新嘗祭に供えられた抜き穂のもみ1升2合が供えられ、豊作を祈念する祝詞が奏上された。玉串を奉奠の後、山の神（水神、龍神）の依代である水麻を宮司が取り出し、大澤孝禰宜から作家老に手渡された。

午後1時半、水乞いの御神幸行列が今宮神社に向かう。神職に先導され、笛と太鼓などの楽士が伝統の音色を響かせながら、水麻を掲げた作家老と竹で作った鍬を担ぐ神部たちと市内を練り歩き、10分ほどで今宮神社に到着した。

水分神事の後、今宮神社の神前で水の恵みを宿した水麻を掲げた神部ら一行が秩父神社に戻ると、作家老は水麻を田の水口をかたどる「藁の龍神」の口に刺す。すると、境内の敷石に龍神様の御神霊が行き渡り、そこは一面の水田となった。

午後4時、御田植神事が始まり、菅笠・白装束の神部たちが神社境内の敷石を水田に見立てて田仕事の所作を順番に行う。「苗代づくり」では、まず「田打ち」の所作が行われた。「御代の永田に手に手を揃えて、急げや早苗～」と「田植歌」を歌いながら、作家老を先頭に鍬を振り下ろす。次に「くろぬり（畔ぬり）」で、神部は鍬で土をかき揚げ、張り付ける所作をした。

秩父神社の境内で「田打ち」の所作をする作家老と神部たち＝4月4日、埼玉県秩父市の秩父神社

市内を練り歩く水乞いの御神幸行列＝秩父市本町交差点付近

灯

「これを見たペトロは、民衆に言った。『…アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、わたしたちの先祖の神は、その僕イエスに栄光をお与えになりました。ところが、あなたがたはこのイエスを引き渡し、ピラトが釈放しようと決めていたのに、その面前でこの方を拒みました。聖なる正しい方を拒んで、人殺しの男を赦すように要求したのです。あなたがたは、命への導き手である方を殺してしまいましたが、神はこの方を死者の中から復活させてくださいました。わたしたちは、このことの証人です。』（使徒言行録3：12―15）

西方キリスト教世界は3月31日に復活祭を祝った。グレゴリオ暦に従い、春分の日の直後の満月の次の日曜日を復活祭と定め、毎年移動する祭日。今年は年度のかわる末日となり、新年度と共に復活祭が始まった。開花宣言と共に希望の春が訪れた。使徒ペトロが堂々と宣言する「福音」は、十字架に磔にされ死して復活されたイエスは救い主キリストであった、ということ。彼こそ「人生の道、真理、生命」として従う群れが2000年世界に広がった。（T）

天地

6面の記事に書き切れなかったやまおさむ氏の話。元々はカントリー・ミュージックをしていたが、大学時代に加藤和彦と出会い関西フォーク・ブームの火付け役の一人となった。デビュー曲の「帰って来たヨッパライ」は解散するつもりで300枚だけ作り、知り合いに配ったりしたのが東京でブームになり、283万枚も売れて引き返せなくなったという▼その加藤和彦が2009年、軽井沢のホテルで自殺してしまった。きたやまは「食い止めねばならなかった医師として、友人としては、実に無念である」との追悼を寄せている。「むなしさ」を研究し、治療してきた精神科医としても断腸の思いだっただろう▼フォーク・クルセイダーズの「悲しくてやりきれない」では、サトウハチローの作詞で「この限りないむなしさの　救いはないだろか」と歌い、宗教との接点を感じさせる。「むなしい」の語源は「みなし」で、「み」とは身や実、味のこと。中身がない、意味がないという状態を指し、そこから派生して、価値がない、本質的なものがないなったという▼それに対して「おもしろい」の語源は、柳田国男によると「面が白くなる」。昔、語り部がいろりを囲んで話をしていると、おもしろい話に聞き手が思わず顔を上げ、その顔が火で白く輝いて見えたことからきたという。縄文時代からの口承文学の一シーンである▼むなしさも面白いと思えば意味が生じる。まずはどうしてむなしいと思うのかから考えてみよう。それがむなしさを味わうことになる。

社説

女性皇族に見る福祉の伝統

天皇家の長女愛子さまがこの4月から日本赤十字社に勤務されている。その報道で思い出したのは2014年に開かれた、昭憲皇太后基金創設百年を記念して東京・渋谷区の国連大学で開かれた国際シンポジウム「日本発。100年続く国際人道支援～明治の皇后『昭憲皇太后基金』と赤十字～」。

愛子さまは成年の記者会見で「災害ボランティアにも関心を持っている」と語られたが、災害被災者の救援や福祉は古くから女性皇族の活動の場でもある。昭憲皇太后の活躍は、国際社会に登場した明治の日本という国の在り方をも示す画期でもあった。

昭憲皇太后と赤十字

明治45年（1912）、米国ワシントンで開催された第9回赤十字国際会議において、災害・疾病・貧困などに対する平時の赤十字活動への支援を目的に、昭憲皇太后が国際赤十字に下賜された10万円（現在の3億5千万円に相当）を元に昭憲皇太后基金が創設された。事業が実施されたのは大正10年（1921）からで、現在まで昭和19年を除く毎年、昭憲皇太后の命日である4月11日に、基金の利子が世界各国の赤十字社、赤新月社に配分され、世界各国・地域の災害や感染症に苦しむ人々の救済や福祉、防災や病気の予防などの活動に充てられてきた。基金はその後、皇室からの下賜金や日本政府、日本赤十字社の協力、明治神宮、明治神宮崇敬会などからの寄付金で増額されている。

シンポでは、当時の日本赤十字社社長、国際赤十字・赤新月社連盟副会長の近衛忠煇氏が「日本から世界へ　受け継がれる『思いやり』の国際貢献」と題し基調講演し、「神功皇后は新羅との戦で降伏した敵兵を殺さないよう命じ、光明皇后は孤児・貧困者の救済や傷病者を施療する悲田院と施薬院を設立し、後醍醐天皇は派遣した軍の戦闘法や捕虜の扱いなどをジュネーブ条約の500年も前に定めたように、日本の皇室には寛容と仁慈の精神が根付いていた」と語った。

1877年の西南戦争の折に博愛社が設立され、86年に日本政府のジュネーブ条約加入に伴い、87年に日本赤十字社と改称した。翌88年に福島県の磐梯山が大爆発すると、皇后陛下は赤十字社に医師の派遣を内示され、これが赤十字社による災害救助の始まりとなる。日赤は1890年から看護婦の養成を始め、戦時や平時の救恤活動に尽力し、第二次大戦中には千人以上の殉職者を出した。皇后陛下自身も日清・日露戦争時には傷病兵を見舞われ、捕虜にまで義手、義足、義眼を下賜された。

また、皇后陛下が海外の赤十字活動や王室、女性の慈善活動に関心を寄せられたことが、昭憲皇太后基金の設立につながった。それは、第一次大戦後に設立された国際連盟により、赤十字の平時の役割が定められる前のことである。

基金の配分は1921年から始まり、大戦で大量の難民が発生し、疫病が流行していたヨーロッパの赤十字各社が対象となり、半分は結核対策だった。23年には日本で関東大震災が起こり、大規模な国際救援活動の先例となる。その支援規模は、2011年の東日本大震災まで破られなかった。

戦後、基金の配分は途上国の支援に重点が移り、戦争に伴う難民や孤児、未亡人の救援にも使われている。赤十字国際委員会も配分の対象で、昨年、大きな台風に見舞われたフィリピンでは、国際委員会が中心になって救援活動を行った。

赤十字の活動が戦時から平時に変わる大きな流れをつくった同基金の先駆的役割は世界に誇っていい。日本の皇后陛下の発意によって、政府開発援助（ODA）という概念が生まれる半世紀も前に、基金が設立された事実に驚かされる。

赤十字をはじめ被災者支援や福祉の現場で活躍される女性皇族の姿は、国民一人ひとりに印象的な記憶として残り、それぞれが危機にあっても平常心を取り戻し、周りの人々のために尽くしながら自身も復興していく、人として生きる道しるべとなった。それが日本という国民国家の形成に大きな力になったことは確かであろう。

家族のモデルにも

皇族における女性と男性の在り方は、国民にとって家族の一つのモデルになっていよう。国民と共に前に向かって力強く進むとともに、取り残される人がいないよう細かく気配りする。その両輪があって、子供らは健やかに育ち、次の家族を創造していく。その集積が国の歴史になっている。

天皇皇后両陛下の慰問を受けた被災者の多くが、ねぎらいの言葉や姿に接して生きる力を回復させている。そんな国に生まれ、共に歩めることを感謝し、周りの人と地域のために働きたいと思う。

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間　■氏名　■郵便番号　■住所
■連絡先電話番号　■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
宗教新聞社
〒一六〇―〇〇二二　東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話03（3353）2940
FAX03（5363）5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料　年間6000円（税・郵送料を含む）

山喜房佛書林
仏教の危機人生の危機に希望の矢を放つ…三部作
浄土真宗の智慧　釈尊から親鸞に学ぼう　定価1200円＋税
寺院経営がピンチ！　坊さんの覚悟　定価1200円＋税
死に方の流儀　中村メイコさんと山折哲雄先生に訊く　定価1200円＋税
瑞田信弘（たまだ・のぶひろ）・著　浄土真宗本願寺派称讃寺住職
神野富一著　A五判　五八〇頁　本体一六、〇〇〇円
補陀洛信仰の研究　チベット・アジア各地の補陀洛信仰とその伝播ルート等の集大成
福田亮成編　B六判　二九〇頁　本体五、八〇〇円
弘法大師聖句集成　本書は大師の言葉が読者の心に直接届くよう工夫され、掲示伝道や寺報の種子に最適。
〒113-0033 東京都文京区本郷5-28-5
TEL：03-3811-5361 FAX：03-3815-5554
発行：アートヴィレッジ
〒663-8002 西宮市一里山町 5-8-502
TEL 050-3699-4954 FAX 050-3737-4954
URL：https://artvillage.thebase.in/

人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土恵想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
新刊！
私の生命（いのち）の復活
上橋泉　著
四六判296頁（本体1500円＋税）
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15 ラ リュミエール1F
TEL 03-6657-9000　Fax 03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
（定価：本体2000円＋税）
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

日本国始め 饒速日大神の東遷
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国。その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
大野七三 著
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 鳳明ビル102A
TEL 03-3813-6344　Fax 03-3813-8990

読みやすく、理解しやすく、真髄を極める達意の新訳
クルアーン やさしい和訳
監訳著・水谷 周　訳補完・杉本恭一郎
2019年7月第3版発行、資料増補 大改訂 定価2700円＋税
国書刊行会
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL：03-5970-7421

日本よ、蘇れ 日本神話の知恵
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
出雲井晶 著
●定価1000円（税込み）
●四六並製　232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社　販売企画部
〒105-8070　東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み　FAX:03-3578-3075

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162-0821 東京都新宿区津久戸町 3-11
電話：03-6265-0852　FAX：03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp